Osaka University Knowledge Archive

Title	CAI学会関西支部について
Author(s)	石桁, 正士
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1989, 73, p. 69-70
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65833
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ＣＡＩ学会関西支部について

石　桁　正　士*

わが国の教育工学関連の学会には、ＣＡＩ学会（Computer Assisted Instruction）、教育工学会、科学教育学会、視聴覚教育学会等いくつかの学会がある。しかしその歴史は比較的新しい。それはこの教育工学という学問分野の新しさによるのであるが、伝統的な教育と工学とがなじみ難かったとも考えられる。

この教育工学関連学会には、ＣＡＩや視聴覚教育や放送教育といった技法やメディアに注目されて特化してきた学会もあれば、科学教育や教育工学といった幅広い包含性で結成されたと思われる学会もある。ＣＡＩ学会は文字どおりコンピュータの出現と、教育への応用とによって生まれた新しい分野を対象とする学会で、昭和49年に結成され、昭和60年に関西支部が結成された。今年中に北海道支部と東海支部が発足する予定である。

教育工学ということばは、その解釈が一義的で、同じ意味で使われているかというとどうもそうとも云い切れない面が多い。ある人達は教育工学を教育と工学のドッキングしたものと考え、工学的な技術や装置を教育に応用することだと考えている。私はこの考え方には賛成できない。というのは工学の技術や装置をちょっと借りて来て教育工学という学問が出来るというのは、どうも学問を単純に考えすぎていると思うからである。またある人達は、教育には工学的に扱える分野があるとして、目標、制御、計測、評価、管理といった工学で用いられている概念を教育の中に確立して出来上る学問分野だと考えている。私はある面ではこの考え方に賛成であるが、あまりにも工学を形式化して考えすぎているばかりではなく、教育を限定して捉えすぎているようにも思える。

私自身は学問に階層性があることを前提として、「哲・理・工・経」という学問階層から教育工学を位置づけたいと考えている。この考え方では、まず教育の問題（ＷＨＡＴやＷＨＹという疑問から出発するもの）を思考して答を見つけ出す階層としての教育哲学（教育思考の学）があるとする。次にこのＷＨＡＴ、ＷＨＹをＨＯＷに問い替えて、教育の事実を調べて答を出す階層としての教育理学（教育事実の学）があるとする。さらに教育理学の階層で見い出された事実、法則、原理を応用して教育の技法を作り出す階層としての教育工学（教育技法の学）があるのだと考える。そしてこの技法を活用して教育を実践する階層としての教育経営学（教育実践の学）があるのだと考える。したがって教育工学とは、教育理学と教育経営学の間に存在する学問という突張である。

ＣＡＩについて云えば、コンピュータで人間を教育するという思想は教育哲学の、ＣＡＩを用いた場合の例えば教育心理を明らかにするのは教育理学の、ＣＡＩの技法を作り上げるのは教育工学の、ＣＡＩを用いた教育の実践を研究するのは教育経営学の階層に属することになる。しかしこの

＊ＣＡＩ学会関西支部長、大阪電気通信大学

ような階層論に基づいて学問を整理分類できたとしても、現在の学会地図まで整理できるとは限らない。

さてわが国のこうした学会活動の特徴として、関西在住の人間からみると、どうしても東京中心になっているように思える。ＣＡＩ学会の本部事務局は現在東海大学平塚キャンパスにあるが、近く他の機関に移り、首都圏内に移転する計画が進行中である。学会発足10周年を記念して、昭和60年４月に関西支部を設立し、名古屋以西の会員にサービスすることになった。事務局は大阪電気通信大学にあって、私が世話役を務めさせてもらっている。

支部には表１に示すような研究会を作り、平均月１回は、何か研究会を開催して会員に参加してもらえるようにしている。

表１　支部の研究会

名　　称	幹　　事（敬称略）
ＩＣＡＩ研究会（Intelligent CAI）	対馬勝英（大阪電通大）、山本米雄（徳島大）
ＣＭＩ研究会（Conputer Managed Instruction）	渡辺寛二（大阪電通大短大部）
コンピュータ利用教育実践研究会	中岳治麿（京都文教短大）
ＥＤＢＳ研究会（Educational Data Base System）	磯本征雄（名古屋市大）、工藤英男（大阪大）、多喜正城（奈良高専）
コンピュータ利用教材研究会	松永公広（明石高専）、東野勝治（堺市立科教研）三宅正太郎（府立科教センター）、水谷徹博（姫路商高）
進路適性研究会	吉川博史（大阪電通大）、植田一広（大阪短大）
コンピュータ利用工業教育研究会	高橋参吉、田中邦宏（府立高専）
情報処理教育研究会（情報処理学会関西支部のシステムソルビング研究会と合同で）	下村　武（常磐会短大）〔CAI学会側〕北川重太郎（甲南大）〔情報処理学会側〕
ＬＯＧＯ研究会（LOGOを使った教育）	村上　優（堺市立科教研）

また表２に示すような学会行事を行い、できるだけ多くの関心のある方々に参加してもらっている。平成元年に入って、２月および３月に学生・生徒のソフト作品展を、２月に兵庫県龍野市の誉田小学校でのＣＡＩ研究会と北九州市で研究談話会を、３月には朝日ハイメディアセンターでのパソコン・ソフト展やＣＡＩセミナーに協賛・協力をしている。　学術的研究だけでなく、教育現場での実践にも、産業界とのコンタクトも広く含めた活動をめざしているのがＣＡＩ学会関西支部である。

表２　支部の行事

展示会
学生・生徒のソフト展
サマー・スクール
シンポジウム
他の学会や研究団体との共催の学術的会合